

はじめに

私は社会人となってからこの10年間、精神科病院に勤務しており、地域型認知症疾患医療センター事業を中心に、外来業務に携わる機会をいただいている。

現在、新オレンジプランに基づく制度政策が検討・実施される中、何事においても啓発や発信と、そのための地域づくりが重要な基礎であると感じこの度のテーマを設定した。その中で、本人、家族のための支援や人権について考える視点を、我々ソーシャルワーカーは忘れてはならない。しかし、日々の業務の中、果たして本人、家族、地域のための支援になっているのだろうか、葛藤を抱えることもある。私は一医療機関の、まだ小さな世界しか知らないが、普段精神科が身近でない方や認知症が自分事でない人と地域へ向けた啓発や、地域の皆さんで地域づくりを行っていくためのソーシャルワーカーの役割、支援の方法について学びたいと考えた。

研修を終えた今、テーマに対する結論として、啓発とは我々専門職が知識を身につけ、研さんを積み、本人、家族、地域と関わることではないかと考えた。研修を行う中で、当初私の考えていたソーシャルアクションとは、例えば、認知症について地域住民に知っていただく機会を持つことなどであるが、それはとても表面的で狭義であったと気づき、その啓発を行うためには専門職が研さんを積み、ネットワークを構築することが大切ではないか、との考えに至ったのである。啓発や発信を正しく受信すべきなのは我々専門職であり、そうした受信が可能な専門職同士の日頃からの関係性の構築を行い、共通する思いなどを持った専門職が地域へ、住民へ向けた啓発や発信を行っていくことのできる地域づくりが、ソーシャルアクションと言える取り組みではないか、と考えた。これは、私にとって大きな気づきであり、日頃の取り組みの意義を見直し、更に発展させていくことのできる学びであると感じている。

そのような考えに至ったこの度の研修における学びについて、振り返ってみたい。